

# ふるさと再発見 第58回

Rediscovery Omihachiman

まちのなまえ⑦

## 「島」

### 「島の由来と内湖」

今回は、「島」地域の名前の由来を紹介します。

現在の島学区は、円山町、白王町、島町、北津田町、中之庄町、長命寺町、沖島町、大中町からなり、本市の北西部に位置しています。島学区の前身である島村は、明治22（1889）年に市制町村制が施行され、奥島村、中之庄村、円山村、長命寺村、白王村、北津田村、沖島村の7か村が合併し誕生しました。合併以前に行われた地券調査で全国的に町村間、地所が入り交じり、境界がはっきりしない場所が多くあったことから、政府は明治5（1872）年に「旧来一村のうち分界を立て、取り扱いたる候村々」の統一を進める布告

を出し、翌6（1873）年に大蔵省は独立村落の合併も積極的

に奨励しました。島学区は、これらの動きに対し、明治7（1874）年に長命寺門前を長命寺村へ改称、同8（1875）年に円山村と日牟禮新田を合併し円山村に、同12（1879）年に白部村と王之浜村が合併し白王村としました。

をだし、翌6（1873）年に大蔵省は独立村落の合併も積極的

に奨励しました。島学区は、これらの動きに対し、明治7（1874）年に長命寺門前を長命寺村へ改称、同8（1875）年に円山村と日牟禮新田を合併し円山村に、同12（1879）年に白部村と王之浜村が合併し白王村としました。

干陸する計画の国営干拓事業でした。干拓事業は食料増産を目的に進めていきましたが、津田内湖干拓の竣工直前になると米の増産が進み、「食の近代化、欧風化」とともに米の消費量が減少し、余剰米が発生したため国は「減反」を行いました。津田内湖の干拓は、「内湖に戻す」「スポーツセンターのグラウンドにする」という主張も出る中で進められ、入植者たちは水田ではなく畑作化を求められました。現在の干拓地には運動公園があるほか、果樹団地構想など積極的な活動がみられます。



昭和22年の島学区 (国土地理院空中写真に一部加筆)

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和5年9月1日現在 ( )は前月比

総数	81,767人	(+ 18)
男	40,158人	(+ 9)
女	41,609人	(+ 9)
世帯	35,368世帯	(- 10)

※外国人住民(40か国・地域/1,890人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE



広報おうみはちまん

令和5年10月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp

WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp



●この冊子は環境配慮型紙を使用しています。印刷はCO2削減のため、再生紙を使用しています。